

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 28 年 6 月 27 日現在

機関番号：37111

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2013～2015

課題番号：25381108

研究課題名(和文) 専門学校が養成する「能力」に関する検討 教員への量的・質的調査を中心に

研究課題名(英文) Examination about "the ability" specialized training colleges trains - quantitative qualitative investigation to teachers

研究代表者

植上 一希 (Uegami, Kazuki)

福岡大学・人文学部・准教授

研究者番号：90549172

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 2,300,000円

研究成果の概要(和文)：専門学校教員への調査を通じて明らかになったのは以下の点である。第一に、専門学校教員が有する「能力」観によって専門学校教育が強く規定されていることである。第二に、そうした「能力」観の学科・学校ごとの多様性である。専門学校教育の多様性は、こうした教員の「能力」観の多様性に規定されていることが推測される。この点も研究の成果の一つである。

研究成果の概要(英文)：It is the following points to have become clear through the investigation to specialized training colleges teachers. First, specialized training colleges teachers' recognitions about "the ability" specialized training colleges trains strongly prescribes specialized training colleges education. Second, recognitions about "the ability" are various. Variety of the specialized training colleges education is related to these variety.

研究分野：教育学

キーワード：「能力」観の多様性 「能力」観の規定力 専門学校教員の認識

1. 研究開始当初の背景

(1)近年の高等教育・中等後教育の改革動向
今日、ユニバーサル段階を迎えたわが国の高等教育・中等後教育は、急速な多様化と個性化が進展しており、その体系的な再編成が大きな課題となっている。その際、毎年約30万人の青年を受け入れ、多種多様なキャリアルートへと送り出す専門学校教育の役割を、青年の進路保障や職業教育機会保障の観点から明確化する作業の必要性は高い。専門学校は、従来高等教育の中心となってきた大学とは異なる性質を持つ教育機関として捉えられているが、大学・短大に比してその実体解明は進んでいない。したがって、専門学校教育の独自性と意義についての明確化は、近年の高等教育・中等後教育の再編成の議論に大きく貢献するものとなる。

(2)専門学校教育研究の課題

今日まで、専門学校に関する研究は、その多様性から体系的に行われてきたとは言いがたく、個々の関心によって様々に行われている状況にある。専門学校の多様な教育実態に対して、実証的な把握を目指した調査研究が行われているが、総じてその多様性ゆえに適確な評価指標の設定が難しく、専門学校教育の特徴と役割に関して明確な結論を導き出してはこなかった。

先行する調査研究においては、専門学校教育の質の保証による社会的認識の改善を現実的課題として、その成果を外的要素(企業からの評価や就職率)から測定しようとする調査研究が多く実施されてきた。これらはいわば「いかにその後のキャリアに繋がるか」という就労的観点から専門学校教育を評価する研究であり、就職率・関連分野就職率が高い教育分野の専門学校に対して高い評価を与えるという結論が共通している。

専門学校が養成する「能力」を検討するに際して、確かに就労的観点は重要であるし、

就職率といった指標も一つの判断基準となるが、これらの観点・指標のみで、専門学校教育やそこで養成される「能力」の実態や意義が明らかにされるとは言い難い。より多様な観点・指標を用いた検討がなされる必要がある。

2. 研究の目的

専門学校の養成する「能力」に対しては、入職後すぐに役立つような職業実践的な「即戦力」とであると評価されてきた。これに対して、申請者は専門学校が「即戦力」を養成しているという評価の妥当性について検討してきた。拙著では、専門学校教育の受け手であった青年に対する聞き取り調査をもとに、専門学校が行っている職業教育が、職業専門的な「狭義の職業教育」に限定されない性質を持っていることについて明らかにしてきた(『専門学校の教育とキャリア形成 - 進学・学び・卒業後 - 』大月書店、2011年)。そこから導出されたのは、専門学校教育は専門学校生の社会観や勤労観を醸成しており、それらが専門学校教育の養成する「能力」の一部として位置付けられるのではないか、という視点である。

これを明らかにするためには、専門学校が具体的にどのような「能力」を養成しているのかについて、専門学校教育の内的要素の分析を通して検討する必要がある。すなわち、専門学校教育の主体である専門学校の教育組織の諸要素の検討が必要であり、とくにその担い手である教員を対象とする検討が不可欠となる。

本研究では、申請者及び分担者の現在までの研究の成果を足がかりとして、専門学校で養成される「能力」を分析するために、専門学校の内的要素の中心的要素である教員を対象とした調査を行うものである。

3. 研究の方法

本研究は、専門学校教員を対象とする質的

(インタビュー)調査を中心として構成する。対象とするのは東京・大阪・福岡の3大都市に位置する専門学校である。質的調査にあたっての予備調査として量的調査(郵送調査)を行い、その結果から仮説を立て、その仮説に基づいて質的調査を設計する。これらの調査によって得たデータを分析することによって専門学校の養成する「能力」について検討する。

そのうえで、こうした得られた「能力」観と各学科・各学校の教育内容(教育目的、教育目標、カリキュラム、授業内容など)がどれだけ関係しているのかについて、それぞれの資料を収集し、互いを照らし合わせることで、両者の関係性を検討する。

4. 研究成果

専門学校教員への質的調査を中心にして本研究が明らかにしたのは以下の諸点である。第一に、専門学校教員が有する「能力」観に専門学校教育が強く規定されていることである。教育内容編成の自由度が他教育機関に比して高い専門学校において、また卒業後のキャリア形成を強く意識する専門学校においては、教員が意識する「能力」観が専門学校教育に強く影響を与えている。そのことが、専門学校教員への調査ならびに各学科・学校の教育内容の照らし合わせにより明らかになった。第二に、「能力」観の学校・学科ごとの違いである。専門学校の多様性に対応して専門学校教員が有する「能力」観も非常に多様であった。この点が確認できたことも本研究の成果の一つである。

こうした成果とともに、研究課題もまた浮かび上がってきた。とくに専門学校教員について検討すべき要素が多数存在すること、そのなかでもとくに専門学校教員としての職業的アイデンティティがその教育実践等を強く規定することが明らかになってきた。一般の学校教育と異なり、専門学校教員の制度的規定は緩やかであり、教員の養成制度も確

立されていない。そのため、専門学校教員の職業的アイデンティティは非常に多様であり、それぞれ多種多様な役割認識、専門性認識のもとで専門学校教育は編成・実施されている。今後、専門学校教育研究を進めていくにあたっては、この専門学校教員の職業的アイデンティティについて明らかにする必要がある。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文](計1件)

瀧本知加、「高等職業教育機関としての専門学校の検討 - 学校における職業教育と高等教育論の関係 - 」、「教育学論集」(大阪市立大学大学院文学研究科人間行動専攻・教育学専攻)、査読有、第39号、pp41-50、2013年。

[学会発表](計5件)

植上一希「専門学校研究の枠組みと方法」産業教育学会研究交流集会、2016年3月12日、名古屋大学

植上一希「職業世界と学校世界を教育を媒介にして接合し、横断的に把握することの意義」産業教育学会第56回大会、2015年10月26日、和歌山大学

瀧本知加「専門学校教員研究の枠組み構築にむけての一考察 - 専門学校教育の特徴と教員との関係に注目して - 」日本教師教育学会第25回研究大会、2015年9月20日、信州大学

植上一希「専門学校教育研究の枠組み構築に向けて 職業的社会的観点から」産業教育学会第54回大会、2013年10月27日、名古屋大学

瀧本知加「専門学校教育研究の枠組み構築に向けて」産業教育学会第54回大会、2013年10月27日、名古屋大学

6 . 研究組織

(1)研究代表者

植上 一希 (Uegami, Kazuki)

福岡大学・人文学部・准教授

研究者番号：90549172

(2)研究分担者

瀧本 知加 (Takimoto, Tika)

東海大学・熊本教養教育センター・講師

研究者番号：10585011